

平成 30 年度 摂津市立味舌小学校 第 3 回学校協議会 会議録

平成 30 年 11 月 29 日(木) 19 時から 20 時 30 分

於：本校南棟 1 階学習室にて

記録：本校教頭 羽田（事務局）

(出席委員) 榎谷佳純、吉田栄子、小澤香織、高森佳代子、前田文雄、以登田毅、河合隆之、

(欠席委員) 門野さとみ、中居正一

(敬称略)

(学校出席者) 校長 前馬晋策、教頭 羽田行伸

1. 校長より挨拶

2. 報告・協議事項

①前回協議会以降の取組みについて

10 月 11 日	正門前ミラーの修理完了（台風 21 号による損傷）
10 月 12 日	火災避難訓練（学校教育課ホームページにも掲載）
10 月 15 日	稲刈
10 月 16 日	DREAM 週間 味舌天満宮秋祭り
10 月 18 日	修学旅行「行ってきます集会」
10 月 22 日～23 日	6 年生修学旅行（広島県 平和記念公園・蒲刈島）
10 月 26 日	5 年道徳研究授業
10 月 28 日	日曜参観・文化祭・PTA カーニバル
10 月 30 日	1 年芋掘り（後日、2 年生も実施）
11 月 7 日	音楽鑑賞会（マリンバ・カンパニー）
11 月 8 日	2 年パセリ水耕栽培見学（新聞報道→読売、産経）
11 月 10 日～11 日	農業祭 作品展示（3 年鳥飼なす 5 年稲作）
11 月 13 日	給食委託検証会議
11 月 14 日	正雀愛育園避難訓練（5 年が園児と 3 階へ避難）
11 月 20 日	1 年遠足中止
11 月 21 日	摂津市連合音楽会（6 年 1 組参加）
11 月 22 日	2 年生パセリ収穫
11 月 27 日	第一中学校二年目教員研修で教員 1 名が一日来校 人権教育研究授業（2 年 1 組） 千葉市花見川区教頭会県外研修受け入れ（14 名来校）

②給食について

○ テーマ

- ・一斉に同じものを食べることの意義
- ・児童の声、教師の思い
- ・食物アレルギーへの対応

(校長) 上記のテーマについて、委員の皆様からご意見を頂戴したいと考えている。

○ 協議内容

(委員) 自分自身はPTAを経験して、給食に関わったこともあるが、今の子どもは給食をしゃべらずに静かに食べているのか？

(校長) 学年によって時間は異なるが、『もぐもぐタイム』を設定しているクラスもある。

(委員) 今は時間内に食べることができない子どもを昼休みに残して食べさせることをしていないのか？昔はそんなこともしていたが。

(校長) 今はそういうことはしていない。食べ終わったら掃除が始まる。

(委員) 学校によってはランチルームがある学校もあるが。

(校長) 市内でもそういう学校はある。

(委員) ランチルームを活用し、ビュッフェ形式で給食を行っているところもあると聞く。

(校長) そういう学校もある。そんなことも考えると給食の運営も変わってきていると感じる。

(委員) 『食育』と関わるかどうかかわからないが、歯科医が上あごの発達と認知症の発症との関連について説を唱えていることもある。そんな内容の講演などをPTAや教職員に聞いてもらうことも良いかと思う。小さい頃の離乳食の与え方や、スプーンの使い方についてもスライドを使いながら話をしてくれる。

(校長) 給食が本当に『食育』の機会となっているかどうかお聞きしたい。

(委員) 自分の子どもは給食の話を良くしてくれる。昔は給食が楽しかった印象もある。給食委員会に参加をすると、除去食への対応など参考になるし、きめ細やかな対応をしてくれていると感謝している。そのような対応も含め、給食を通じて子どもたちは多くのことを学んでいると思う。

(校長) 確かに子どもたちは給食への関心が高い。べふこども園では給食を提供していることから保護者の関心も高い。

(委員) 私のところの孫は、家では食べない野菜があるが、給食では食べてくる。給食で食べる経験をしていることは子どもにとってチャンスを与えてくれていると思う。『食育』という点で考えると、給食ではしゃべりながらだと、食べるのが進まない子もいるのも事実なので、やむを得ない部分もあるのはわかる。きちんと時間を決めて取り組み、しゃべることもしながら、『楽しく食べる』経験をすることも大切だと思う。

(校長) 私は一人で、校長室で給食を食べていると寂しいと感じることもある。子どもにはわからない部分もあるが、検食で早く食べ、片付けるときに子どもたちに「もう食べたの？いいなあ」と言われることもある。

(委員) 私も、給食を食べるときに話をして食が進まないのは本末転倒とも感じるのでやむを得ない部分もあるかと思う。

(委員) 私のころは「給食がおいしい」と思っていない時代だったので、それから考えると今の給食はおいしく恵まれていると思う。食べるときに子どもたちは班で食べるのか？

(校長) クラスによって違うが、班で食べたり個人で食べたりしている。

- (委員) 保育園では、給食で季節の食材を知ることできるので、それも子どもにとって学びだと思う。アレルギーの対応では保育園も大変なのは同じ。今の給食では個別に対応してくれるので、同じようなものをみんなで食べる機会を与えてくれている。それは親にとってもありがたいことだと思う。食べる時のマナーも学べる。
- (校長) 毎週月・水・金のご飯の日で、昨日の給食はサンマの筒煮で、骨のあるサンマを提供した。高学年の給食委員が低学年のクラスに行き、骨のとり方を説明していた。放送でも骨があるから気を付けるように促している。そんな取組みについてどう感じるか？
- (委員) 昔は骨のとり方でも失敗して学ぶことがあったから、それも良いのではないかと思う。アレルギーの対応について、学校での対応をどのように安全で確実なものにしていくか。給食の時間が決まっている中で、これからの社会はいろいろな国の人とコミュニケーションをとることも必要で、食事の機会にそんな場を持つこともある。そういったことを経験するために、逆に〇〇分まで食べきらずにお互い話をしながら食べることもさせてもいいのかとも感じるが。
- (校長) 確かに時間に追われている部分もある。現場にもう少しゆとりのある時間設定もできればいいだろうと思う。

③修学旅行について

- (校長) 4年と5年の保護者対象にアンケートを実施して、集計を行った。全体的には現在の修学旅行に対して肯定的な回答を得た。しかし、自由記述を見てみると考えるべき点もあると感じている。例えば、広島まで行かなければならないのか？という意見は、時間がタイトになることや、広島でなくても平和学習ができるのではないかということも含んでいると思う。実際、行程は慌ただしく、様々な内容が盛り込まれている。そこから宿泊地に移動をすると暗くなってからの到着となり、宿泊地でも忙しいスケジュールで過ごし、気が付けば消灯時間になる。「トイレに行く時間が十分にはなかった」と言っている児童も中にはいた。広島でなくてもいい、という意見や、広島でなければできないことをやれば良いという意見もある。委員の皆様のご意見をお聞かせいただきたい。
- (委員) 大阪からは比較的広島には行きやすいと思う。
- (委員) 自由記述にも、平和学習にこだわらなければ広島でなくても良いという意見もある。しかし、実際に広島に行くことで、被爆について学んだという思い出や印象も残るので、広島に行くことも大切と感じている。
- (校長) 被爆体験講話は大阪でも被爆者から話を聞く機会を持つこともできる。しかし、広島という地で被爆について話を聞くことも大切な経験だとも感じている。
- (委員) 今から15年ほど前までは、被爆者の方に大阪まで来ていただいて話を聞くことはできただろう。事前に学校で話を聞き、現地でボランティアガイドの案内を受けて碑めぐりをした経験もあるが、被爆者の方も高齢になってきており、難しくなっているかもしれない。
- (校長) 今回でも、碑めぐりのボランティアガイドの方は被爆体験がなく、伝承していただいた話を聞いてガイドをしていると聞いた。
- (委員) 確かに、被爆体験のある方はかなりの高齢になっている。
- (校長) 自分の身の回りの戦争を体験した方も高齢だったり、亡くなったりしている。
- (委員) 東京の学校と比べると、大阪は広島に行くのにも近いから、小学校の修学旅行で行く機会を持つのはいいことと思う。被爆地である広島で話を聞く機会を大切にすることは大事な

機会だと感じる。

(校長) 事前学習も大切だと思う。資料館の見学が怖いと言っている児童がいた。8月6日の平和登校日の際の講話でも、怖かったという児童がいた。

(委員) そこに配慮して、資料館に行かないことはもったいないと思う。

(委員) この予算なら先生方は大変だが2泊3日にしてもいいのではないかな？

(校長) バス代の値上げなどもあり、そうするとより費用がかかる。

(委員) 事前に予算の内訳等は、今の時代しっかりと示しても良いだろう。

(校長) その必要があるとも感じている。

(委員) 積み立てをもう少し早い時期(低学年)から集めていくと、月々の集金金額も下がり、予算も多く取ることができると思うので、宿泊行事が充実すると感じるが。

(校長) それも一つの工夫だとは思う。今は銀行口座の自動振替で対応している。

(委員) 口座振替の対象となる銀行が特定の銀行となっていることは保護者には負担ではないか。家庭が使用している銀行口座から引き落とすことができるようにしていくことも未納に対応することができるようになると思う。

(校長) 引き落とす銀行が異なると、手数料が発生するという問題もある。頂いたご意見をもとに、現在の内容、広島という行き先は維持しながら、対応を検討していきたい。かつては2泊3日で修学旅行に行っていた時期もある。子どもたちは宿泊先でマナーや時間を守って行動している。

(委員) お風呂には問題はないか？中で水着を着ている子どもがいるとかいう話を聞いたが。

(校長) お風呂でもマナーを守っている。ただ、外風呂に入るマナーを知らない児童もいる。

(委員) スーパー銭湯に行ったりしていると思うが。

(校長) それでも知らない子はマナーを知らない。そういったことも指導する必要がある。これから、現4年生の修学旅行の仕様書を作成し、業者を決定していく。

(委員) 修学旅行の時期については？

(校長) 10月末を予定している。その時期の団体専用列車を利用できると予算は安くなり、それに合わせる必要もあるし、かつて行っていた6月では暑いという問題もある。

3. その他

○学校教育自己診断アンケートについて

(校長) 大阪府教育庁が示しているアンケート項目に基づき、児童は5年、6年に25項目、保護者は全家庭に対して30項目、教職員に対しては50項目を問う。自由記述欄も設け、12月上旬に配付し、中旬までに回収したい。回答項目の中に「わからない」を入れてしまうと、集計の分析が難しくなることもあるので、あえて回答項目から外した。

(委員) 問いの中に『興味深く』という文言があるが、子どもにその意味が分かるのだろうか。

(校長) 児童が理解しやすいように文言を訂正する。

冬休みの間に集計をして、分析を三学期の当初に行い、また示していきたい。

(委員) 児童用と教職員用の質問で、どの項目同士が対応した質問になっているのかということが大切だと思う。子どもが先生に対して感じていることと、先生が子どもへの活動に対してどう感じているかを照らし合わせ、その差が開いているなどあれば、改善点だと思う。

(校長) 確かにそう感じる。教員は子どもが楽しいと思って授業をしているが、実際のところはどうなのか知る必要がある場合もある。

(委員) アンケートを取った結果、共通の項目で子どもの思いと教員の思いが乖離している部分が

あれば、それを合わせていくための努力が改善だと思う。

(校長) それも参考にさせていただく。アンケートの中身は、学校運営のことについても問う。

(委員) 教職員アンケートと保護者アンケートの項目(清掃が行き届いているかなど)も一致させることも必要だと思う。立場の違う人間が違う視点から評価し、それを把握する必要もある。

(校長) 項目については、十分検討させていただきたい。

次回の学校協議会では、そのアンケート結果を受けて、皆様方から関係者評価をいただきたいと考えている。集約し、分析したアンケート結果を皆様に事前に送付させていただくので、第4回学校協議会にてご意見をお聞かせいただきたい。まとめたものは、学校協議会会長名で保護者だけでなく教職員にもしっかりと示していく。また、3月までに学校経営計画を教育委員会に示す。その内容についてもご意見を伺いたく、第5回学校協議会を2月28日に実施したいと考えているのでよろしくお願いいたします。

○その他

(委員) ホームページを見ると、学校の沿革の中に、別府小に分離したときに浜町の児童が通うようになり、味舌東小ができたときに浜町の児童の一部が味舌東に通うことになったという記載がないが。

(委員) 昭和62年ごろに浜町の住民の一部が通学区域について問題になっていたことを聞いたことがある。どうも自治会ごとで通う学校が分かれており、その中で別府小に通っている自治会がある。

(委員) そのあたりの経緯を詳しく調べ、正しく記載し、不正確な記載を訂正する必要があると思う。それと、校区配置図がPDFで記載されているが、味舌東地区の防災倉庫が学校に設置されていることも記載した方がよいと思う。また、校内配置図の中に防災備蓄品を置いている教室も明記しておくと思う。地域との関係の中で学校があり、防災拠点であるという観点からも対応をしてもらいたい。

(委員) 味舌小学校も、慶徳寺から直接正雀1丁目に行ったわけではなく、味舌天満宮に学校があったこともある。そんな1ステップも踏むのも必要だろう。

(委員) 浜町の方々も、味舌天満宮にゆかりのある方々もおられる。浜町区域の方にお話を聞かせてもらうときにそんなことを聞くのも良いと思う。

(校長) 少しお時間をいただき、対応する。新しく設定されたホームページを丁寧にご覧いただき、ありがたいと感じる。

4. 閉会

次回予定 平成31年2月1日(金) 19時
摂津市立味舌小学校 学習室にて